

飯南

いいなん

- 新年のご挨拶
- 平成20年度 一般会計補正予算
- 一般質問
- 常任委員会報告
- 飯南町への想い（寄稿）

飯南町議会 鳥根県飯石郡飯南町下赤名890番地
飯南町議会事務局 TEL:0854-76-2190 FAX:0854-76-2867

第16号

平成21年1月20日



新年おめでとうございます

山里に降り積もった雪は町を一面の白布で覆い、新年を迎えるに相応しい場面となりました。下来島の西蓮坊にも近在の人々が越年の時を共に祝おうと、寒気も厳しい中にもかかわらず笑顔の老若男女が集っていました。境内では地元ケーブルテレビの年越しカウントダウンの中継放送もあり、地域の方が撞く除夜の鐘が響く音にのって新年を迎えると大きな歓声で祝賀の交歓がなされ、清らかな年の幕開けを迎えることが出来ました。



厳寒の年越しをあたため「しし汁」でホッと笑顔

12月定例会で可決された主な議案は次のとおりです

12月定例会は、12月9日から12月19日までの11日間の日程で開きました。

- 条例関係** 飯南町国民健康保険条例の一部を改正する条例など二件
- 予算** 平成二十年度飯南町一般会計補正予算(第五号)など六件
- その他** 飯南町土地開発公社の解散について一件



平成20年度 一般会計補正予算は

携帯電話不感地域の解消対策事業費及び頓原中学校体育館耐震大規模改修事業など

3億5千7百12万円

各会計	補正予算	予算総額	
一般会計	357,122千円	6,884,225千円	
特別会計	国民健康保険事業	73,785千円	796,700千円
	後期高齢者医療事業	2,500千円	158,011千円
	簡易水道事業	800千円	379,025千円
	下水道事業	1,772千円	445,067千円
	病院事業	12,207千円	1,205,821千円

陳情

(陳情者)

- 井戸谷上自治会 会長 小松 勇雄
- 井戸谷下自治会 会長 難波 郁雄

(内容)

井戸谷旧保育所入口より長徳寺までの現道を、町道昇格及び除雪車進入のための拡幅工事についての陳情

(審査委員会)

教育経済常任委員会

(審査結果)

採択



新年のご挨拶

飯南町議会議長
那須 穂士輝



本年も何とか
お願ひ申し上げます

新年あけましておめでとうございます。
町民の皆様には、明るく希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。
昨年中は皆様方の温かいご理解ご支援により、議員活動に精励できましたことに対し、心からお礼申し上げます。
さて、低迷を続けております我が国の経済、政府としても様々な施策をとっておりますが、多くの国民には回復の実感などまったくなく、地方自治体を取り巻く諸情勢も依然として厳しいものがあります。
本町におきましても、過疎化、少子高齢化が加速し、将来の担い手養成が喫緊の課題となっております。更に、地方交付税の減額等により、自主財源の乏しい本町の財政状況は極めて、厳しい状況であります。

このような情勢下で、最小限の投資で最大の効果が得られるよう、何が必要で何を最優先にすべきかを見極める視点が最も大切であり、議会の果たす役割は一層拡大し、重要度も増してきておりますが、本町議会も本年七月改選となります。
旧町ごとの選挙区から選出された現体制も残すところ六ヶ月足らずとなりました。全議員が気持ちを新たにし、住民生活の安定向上を図るため、議員一同切磋琢磨し積極的に取り組んで参りますので、皆様の変わらぬご支援・ご指導を賜りますようお願いいたします。
町民の皆様にとりましても、この一年が実り多い年でありますようにご健康とご多幸を、心からお祈り申し上げます。年頭のごあいさつといたします。





元旦マラソンに参加する頓原小の子供たち



長島正一議員

Q 若者の定住対策と雇用の創出を A 目標実現のための政策立案で

地方を取り巻く環境が厳しいなか、若者の定住に向けた施策や雇用の創出は急務です。

①若者向けの公営住宅の整備、町住宅用地や空き家の有効活用に工夫を。

②安心して住むための施策として、子ども(一五歳未満)の医療費の無料化。

③安全な食べ物が求められる今こそ、本町の特徴を生かした地場産業創出のため、一点突破での取り組みを。

④これらの施策を進めるため、町民本位の斬新な予算編成を、また、本町の素晴らしさ(自然、農産物、病院・福祉施設の充実等)を知らせる努力が行政の役割では。

山崎英樹町長

①定住化対策として、今後数年間で二十戸程度新築を目標とし、来年度、来島JA跡地に八戸建設します。

また、空き家住宅の町営化や泉州住宅用地に低価格持ち家制度創設など検討します。

②子どもの医療費は、本町独自の制度として、乳幼児の一ヶ月の負担額は、入院二千元、外来千円です。

インフルエンザの予防注射は、十八歳未満千円で接種できるようにしました。

無料化については、宿題とします。

③雇用の創出には、「産業活性化ビジョン」の策定により農林産物等の六次産業化を進めます。

里山コミッションでは、地域情報の発信や本町特産物のネット販売を行い産業振興の役割を果たします。

④予算措置は、事務事業の徹底した整理合理化等により捻出した財源を、緊急の課題である雇用の確保、定住の促進、農林業の振興などの地域活性化に集中的に投入します。

また、本町の素晴らしさをテレビ放映等の活用により情報の発信に努めます。

12月定例会

町政を問う

一般質問

Q 発芽玄米の導入を A 給食の目的を考慮し検討

門 眞一郎議員

「発芽玄米が幼児の脳の発育によい影響を示した」、「記憶力の向上が確認された」として、大学や企業等が研究発表をしています。

一方、発芽玄米を簡単に作れる小型精米機が開発され、家庭への普及が始まっています。

本町では県下でもっともエコ米が生産されており、食味よさと安全性が発芽玄米に適しています。



家庭用の発芽玄米小型精米機

子どもたちの学力向上とエコ米の利用促進のため、この精米機を給食センターへ導入する考えは。

中 稔教育長

学校給食は食育として、「健全な食生活の実現」「食文化の継承」「健康の確保」等が図れるように、食に対する習慣や知識、食の選択する判断力を身に着けるために学習として取り組んでいます。

バランスの取れた食事、正しい食生活、マナーを身に着けるとともに、大切なもの、必要なものを選択する力を身につけることが重要と考えます。

発芽玄米は栄養価が優れており、脳の働きや健康に有効であるとの見解もあり、効果、経費、センターでの作業性等調査し、給食の目的に沿った形のなかで検討します。



Q 獣被害に対して A 町として対策と支援を Q 獣被害の実態を踏まえて検討

永井 章議員

今秋には、イノシシの繁殖により農作物、特に水稲耕作農家に被害が多発しました。

出雲広域農業共済組合では、有害獣侵入防止事業などの助成制度がありますが、町として捕獲奨励補助金など、更なる対策をとるべきでは。被害を未然に防ぐため、共同による集落ぐるみでの対策が必要では。

また、下米島のイノシシ解体処理施設は貯蔵能力に限界があり、加工肉の販路及び消費拡大に向け、町も積極的に協力すべきでは。



手倉のイノシシ解体処理施設

山崎英樹町長

イノシシ被害対策は、効果的な集落ぐるみでの取り組みとなれば、国の事業導入や、中山間地等直接支払制度の活用などの支援を検討します。

また、イノシシ肉の活用では、農業振興、特産品づくりからも、町として商談会への参加、ネット販売など、販売促進活動で支援しています。

駆除については、猟友会に尽力いただいています。捕獲奨励補助などは、実態を踏まえて検討します。





Q 組織の結集で園芸振興を
A 組織的取り組みは有効

難波俊司議員

これまでいろいろな作物が奨励され、生産の拡大が図られたが、目的達成に至っていません。

しかし、野菜・農産加工品を中心とする「産直」販売は、大きく伸びています。

本町も、この流れに乗っていくことが大事でありますが、個々の生産者での規模拡大、生産増大は、資金、労力、販売等の面から限度があります。

恵まれた中山間地の環境や風土を生かし、他産地に對抗して行くには、集落営農組合、各生産グループ、企業等の連携による推進組織が重要と考えます。生産拡大についての考えは、

山崎英樹町長

個々の農家での生産は、高齢化などにより、規模拡大は限界があります。

園芸部門について、各団体が組織的に取り組んで行くことは、今後の振興方策として有効なものと考えます。

生産拡大には、①各品目ごとの指導者の配置、②施設についてはリースハウスなどによる初期投資の軽減策などの工夫、③J A・里山コミッションなどによる販売先の確保などの販売支援が大事であり、県・J A・町が一体となって振興することが基本です。



Q 原木キノコ栽培に本腰を
A 魅力ある商品として支援

難波議員

本町は、森林セラピー基地に認定されたすばらしい山林、地域であります。

広葉樹林の適期伐採による美林形成や有効利用のためにも、椎茸などのキノコ栽培は、国産嗜好もあり魅力ある特産品です。本町の豊かな山林、気候、

風土を生かしたキノコ栽培に町として本腰をいれるべきでは。

山崎町長

原木栽培は、有望な林業振興の分野です。魅力ある商品とするために、生産組合などの関係者にも考えを伺い、応援していきます。



宇山の共同ほだ場

12月定例会
町政を問う
一般質問

平成19年度
決算審査
特別委員会

報告書

決算審査特別委員会から審査結果が報告され、賛成多数で「認定」されました。
なお、報告書には、次の審査意見が付けられました。



長谷長命園（薬草園）を視察

【審査の意見】

- 1 交付税等の財源の減少及び町債償還額の増加により、実質公債費比率は県内トップの26.9%となった。このままの高い数値が推移すれば、「財政健全化法」に基づく早期是正措置団体の指定を受ける可能性もあり、引き続き行政改革への積極的な取り組み、徹底的な歳出の抑制を行い行財政の健全化に取り組まれない。
- 2 各種税及び料金等の滞納整理は、現年度分については、徴収の努力により収納率は向上したが、過年度分については、実情を把握した対応や措置を講じる必要がある。今後とも鋭意収納に努力されたい。
- 3 誘致企業の株式会社サブロ島根には、鋭意営業努力されているが、平成19年度に資金不足により運転資金3,000万円の貸し付けを行った。現在会社の状況は、当初計画した販売目標及び販路拡大が低迷しており、また町が工場建設予定地として平成17年8月に契約した土地は、平成21年8月までに工場を建設するとの約定になっている。
町は株式会社サブロ島根の実情を調査し、残余期間のうちに建設予定地のしかるべき利用方法を判断すべきと考える。



敷波浄水場を視察

- 4 頓原簡易水道拡張事業は平成19年度に敷波浄水場造成工事及び配管工事が敷波地区外3ヶ所で施工されている。現在計画されている事業は、平成25年度を目標に進められているが、それぞれの工事完成後は1戸でも多くの加入に努力されたい。
- 5 衛生費の健康診査は年1回実施されている。高齢化が進むなか、保険予防が必要と考えられるのに受診率が極めて低い。
今後、体制の充実及び関係機関と連携を図りながら「まめなまちづくり」に努力されたい。
- 6 飯南病院及び来島診療所は検診・一次医療の強化を図り、住民により身近な医療機関となるよう努め、まず町内の医療機関に足を運んでもらえるよう努力しなければならない。
また、町外の病院から退院時に町民の引き受け先となることが望まれており、平素より町民の拠り所となるよう、一層努力されたい。

総務厚生常任委員会

■国民健康保険条例を改正

平成21年1月から産科医療保障制度の創設により、出産育児一時金が3万円加算されることとなる条例を可決しました。 35万円⇒38万円

■琴引フォレストパーク貸付金 元利収入を減額補正

当初予算では(株)琴引フォレストパークから2千869万7千円の返済が見込まれていたが、(株)琴引フォレストパーク解散に伴って1千936万3千円の返済にとどまることから、その差額933万4千円の減額補正を可決しました。

■携帯不感地帯の解消対策費の増額補正

小田・真木地区は伝送路の整備を本町が行い、谷地区は伝送路と通信鉄塔等を本町が整備することにより、携帯電話の不感地帯の解消が図れるため、1億2千950万円の増額補正を可決しました。

また、都加賀地区は通信事業者の自主事業で整備が行われます。

■医療用画像システム等の整備費を増額補正

医療用画像システム(デジタル画像の保存や配信)や酸素濃縮装置の整備などに1千220万7千円の増額補正を可決しました。

このシステムにより飯南病院から他病院に紹介する場合、患者画像情報をCD-Rなどの媒体で提供できます。

教育経済常任委員会

■土地開発公社の解散を可決

志津見ダムが完成間近となり、ダム関連事業による大規模土地開発が縮小するため、公社継続の意味がなくなる。土地の取得に起債の充当が認められることとなったことや、小規模な用地の取得は基金で賄えることにより可決しました。

■頓原中学校体育館の耐震大規模改修費の増額補正

頓原中学校体育館の耐震及び大規模改修で、壁・床・屋根等をすべて剥ぎ取り、骨材補強を行うものです。先の、中国四川省の地震災害による学校施設の倒壊事案もあり、学校への投資は急を要すると判断し、1億9千85万円の増額補正を可決しました。



町道昇格調査の現地視察

■陳情第6号を可決

井戸谷地区旧保育所入口より長徳寺までの現道を、町道昇格及び除雪車進入のための拡幅工事の陳情については、現地の確認を行い、町が管理すべきと判断しました。

土地の無償提供も約束されており、採択しました。



携帯不感地帯の真木集落

研修会場の「木魂館」



議員視察 研修報告 熊本県小国町

地域資源のもつ魅力九州ツーリズム大学で受講して

熊本県小国町は、九州ツーリズム大学の中核をなす町で、細菌学者の北里柴三郎が生まれた地でもあります。

この町で始まった「ツーリズム」は年間宿泊者30万人、入込み総数では110万人にも達する成長を遂げており、人口85000人の町の大きな魅力となっています。

飯南町は平成19年3月に森林セラピー基地として指定され、グリーンツーリズムへの第一歩を踏み出したところです。この町の取組を学び、「本町の特徴を活かしたツーリズムのスタイルを見出す」目的で研修に臨みました。

都市住民には潜在的に田舎暮らしへの憧れがあり、これは新規就農と異なる農的暮らしへの憧れであり、生活を立てる手段が大きな障害となります。

小国町では20代後半のUターン者が商店街の中へ、自分が行きたいと思っているオシャレな飲食店を開き、地元の若者の利用が進みました。これをきっかけに、若者向けの店が増えました。若者が農村で生活するためには仕事おこしが必要で、地域に埋も



大分県小国町ツーリズム大学を視察・研修

れているものの掘り起こしにより、小さなビジネスを作ることが可能です。

ツーリズム大学の発足により、商家民泊や農家民泊が始まり、地元の飲み屋で酒を飲み、交流が広まりました。おぐに自然の学校は地元の子供

れに環境、自然、農業等を教育する目的で作られました。都市から企業の労組やスポーツクラブの体験教室を受け入れ始め、今では北九州の8校の中学校を受け入れ、文化祭に農産物の直売を行うなど、より地域に密着した交流が行われています。

これらの活動は決してボランティアで行われているものでなく、自分たちの持っているものに価値を見出し、お金を払ってもらおう仕組みを作ること、地域の経済に良い影響を及ぼしています。

本町では里山コミッションが都市と地域をつなぐ役割を持ち、発足したところですが、都市住民の求めているものと、地域資源の持つ魅力をつまみつけて、経済活動となること期待されています。今後交流が一層拡大するよう、支援の強化と相互協力の推進を図るべきと考えました。



飯南町への想い

飯南町に住んで

飯南町都加賀 景山 玲児

私は飯南高校を卒業した後、広島市に住んで専門学校に通っていました。はじめは、そのまま広島に就職しようかという気持ちもあつたのですが、家から通える会社に就職

もきまり、飯南町へ帰ってきました。

その後、平成18年に結婚し、またこの町を離れることになったのですが、子どもも生まれ、その子が大きくなつたときのことを考えて、家族三人でもう一度帰ることになりました。

飯南町に帰ってきたことで、今まで気がつかなかった沢山のよいところに気づくことがありました。

特に、子どもを育てていく上で、家族や保育所の先生から、言葉使いやあいさつなどを学ぶだけでなく、祭りや町民大会などの行事に参加することで沢山の地域の方々のふれあいのなかからいろいろなることを学び、

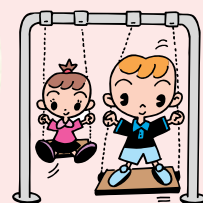
のびのびと育てているように感じます。

また、そんな子どものふれあいのなかから、私たち夫婦にも気軽に声をかけてもらい、そこからまた地域の方々のつながりを感じる事ができました。

たくさん自然のなかでふれあい、遊び、遊ぶことで笑顔の絶えない毎日を過ごせるこの町を大切にしていきたいと思つます。



景山家の皆さん



ゆの
1人娘の由野ちゃん(2才)

いざというとき 知っておかなくちゃ

AEDの使い方を

(自動体外式除細動器) 議員が受講

町内8ヶ所の公の施設に設置してある、AEDの使用方法について、11月7日(金)に議員は、雲南消防本部の講師から「心肺蘇生法」と併わせて、普通救命講習会を受講しました。



編集後記

一年を表す漢字として「変」が選ばれたように、何とも色々なことのある平成20年が終わりました。

政権は安倍政権から福田政権に引き継がれ、そして麻生政権になり低支持率に苦しんでいます。

社会も同じく、アメリカに端を発する金融危機で投機マネーが原油高を呼び、燃油だけでなく、肥料の高騰にも及びました。

そして、世界的な不況の影響で社会を牽引して来た輸出関連企業の売上予想の下方修正が相次ぎ、弱い人にしわ寄せが向けられています。雇用維持という朗報が聞けない現状を救う役目が地方公共団体に向けられており、議会の役割も注目されます。

今年選挙の年でもあり、皆様の意見を聞いて飯南町発展の一翼を担いたいと思つます。

議会広報編集委員会

(難波 伸一郎)

